

# 日本山岳会 越後支部報

第 15 号

平成28年2月1日  
発行 日本山岳会越後支部  
発行者 遠藤家之進正和  
新潟県新潟市南区鷺ノ木新田1049  
TEL・FAX 025-362-5004  
広報委員長 本間 一人



残雪の飯豊連峰と黒煙を上げるSL号

平成27年5月23日、総会の会場へ向かう道中で、新潟駅始発の磐越SL号に山都で会う。阿部信一さんと小高い所に入り上がって運良くパチリ。?マイマイの大繁殖とかで3~4cmの幼虫が、上から下からウヨウヨで鳥肌。一瞬の通過だったが3枚撮ることが出来た。

撮影 山田 智子

成功させよう、全国支部懇談会。

四月九日(土)十日(日) 岩室温泉、ゆもとや

## 年頭の挨拶

支部長 遠藤 家之進正和

明けましておめでとうございます。会員各位におかれましては、佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年、創立七十周年記念事業をはじめ、多くの行事が予定されており、担当役員等にありましては大変の年となりますが、支部活性化のため、ご協力をお願い申し上げます。

四月に「鮮やかな早春の越後の山へ」と標して、第三二回全国支部懇談会を岩室温泉で開催します。親睦登山会場を弥彦山とし、弥彦山塊縦走コース、旧裏参道コース、弥彦山塊周遊コースを設けて全国支部から二百有余の会員が集結して、残雪輝く飯豊連峰から越後の山稜を眺め、早春の花々を楽しんでいただけるよう準備を進めています。

全コースに大平園地を組み込み、日本山岳会創設者の一人である高頭仁兵衛翁の碑を觀て、先人の偉業を偲んでいただきたく設定しました。そのためにも越後支部会員の協力を要請したところ、多くの協力者を得ましたことに感謝申し上げます。

昭和二十一年(一九四六年)十二月五日、高頭仁兵衛翁邸で藤島玄をはじめ十人の発起人で支部結成をして、今年で創立七十周年を迎えます。記念事業として、山崎幸和顧問を委員長に「日本三百名山越後支部会員執筆二一座全山登山踏破」を推進することとなりました。三月二十七日の浅草岳を皮切りに十一月三日の御神楽岳を、執筆者

を中心にリーダーとして支部会員の総力を挙げて全山登頂しようというものです。登山内容から参加者限定している山行もありますが、多くの参加者を得て、無事終了することを願っています。

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝することで、本年より八月十一日が「山の日」として、国民の祝日に制定されました。これまで「山の日」の行事に関して検討してきましたが、越後支部としては、七月二十五日の「高頭祭」を「山の日」記念行事として、今後開催していくことが役員会で了承されました。

昨年の晩秋、天蓋高原の「悠遊山荘」に集い、天蓋山を登る第一回集登山行が開催されました。会員相互の個々に抱く山、自然、生活文化等を語り合う交流の場を目的としています。今年、上越地区で開催予定です。多くの参加をお待ちしています。

新たな取り組みとして、親子登山を計画しています。自然に触れ、登山の喜びを味わってもらい、次世代を担っていただきたく、若い親子、孫の面倒をみる祖父母の世代も含めて、里山で親しんでもらうハイキング程度の登山を予定しています。近隣で参加希望者がありましたら、大いに参加を勧めていただきますようお願いいたします。

このように多くの行事を開催予定しますが会員の協力で、安全に遂行できるとを願って年頭の挨拶とします。

# おめでとうございます 藍綬褒章を受章して

田邊 信行

十一月九日環境省にて環境大臣等や事務次官等幹部の前で褒章伝達があり、午後皇居春秋の間にて天皇陛下に拝謁し、全体に對してのお言葉と一人ひとりの前を進まれお言葉を賜りました。平成四年に自然公園指導員の委嘱を受け、磐梯朝日国立公園を担当区と定められていました。県山協に平成二年から参画させていただき、事務局の他に自然保護活動を実践して来ました。特に、故石田国夫氏、桑原悌治氏、坂井厚氏他多数の方々から自然保護活動をご教授いただき今日に至っていますが自然保護研修会は有益な場でした。この活動を支えてくれた妻や家族、一緒に登山や登山道保全等や小屋番などをしていただいた方々に感謝を申し上げます。

## 叙勲を受けて

齊藤 宣雄

昭和十七年生まれ、西蒲曾根出身。秋の叙勲で「へき地医療に功労があった」ので、瑞宝双光章を頂く。下越山岳会に昭和五十年に入会、日本山岳会に平成八年に五十嵐篤雄氏の推薦で入会。新潟県中高原登山に第四回から全てに参加し救護掛を務める。平成十二年度文部省中高原登山指導者講習会で登山医学について講義する。新山協ニュースに平成十三年一月から九回にわたって登山医学について執筆する。平成十四年の還暦までに日本百名山を登り終え

た。登山は初心者であり、有給休暇などない私にとっては、大仕事でありました。一緒に山に行ってくれた皆様に感謝申し上げます。

## 古川征夫氏「黄綬褒章」の 栄誉に輝く

新潟雷鳥倶楽部副会長 炭田 秀昭

妙高市在住の会員、古川征夫氏（アルゴス代表取締役）は、この度、「黄綬褒章」の栄誉に輝きました。古川氏は昭和五十八年より、新潟県測量設計業協会の理事、監事の要職を経験後、平成二十年から同会の会長を務めてこられました。この間、七・一三水害や中越地震、中越沖地震等、相次ぐ大災害の早期復旧に対する貢献により、平成十九年に国土交通大臣表彰を受賞、また、昭和五十年代より雪崩、吹雪等の雪害、克雪対策に取り組み、高い評価を得てこられ、今回の受章にいたしました。現在、上越妙高地域の登山同好団体「新潟雷鳥倶楽部」の会長として、趣味の山登りを楽しんでこられます。

## つれづれの山

坂井 厚

鬱蒼たるブナ樹の中に、所々残る高い伐根。遙か上空をB29が、尾を引いて飛んでいる（昭19長岡営林署五味沢研伐事務所）。引揚者を多く抱えた国鉄の職場は賑やか。同好者での磐梯山は、野宿の翌日であった。職場の人に誘われて二王子岳の裏を登って来た年長の人に「無理だ」と忠告されて三

光沢下りを断念した（昭22・5）。通勤で顔を合わせた私は、戦域のN氏を知り、以後、彼に誘われるようになった。桑川入り新保岳でS氏の民俗学調べの一端を知った。

## 火 葬

しとしとと降る梅雨の中、雪渓に組まれた処から炎が燃え上がり、異臭を靡かせていた。じつと首を垂れている四人、合掌して過ぎ去る。「遭難するとうなるんだよ」とN氏。例え自殺だったとしても、若い私には、強烈な印象となって忘れられない（昭23・6）。

マナスルブームの中で地図を検討し、杓差岳にのめり込み、青春の涙を独り流した（昭33・4）。美智子荒れとなった大石集落の熊狩同行。二晩も通った酒宴も、銭勘定ピタリ（昭34・4）。夏、二人の同行を得、尾根路の開拓を進言した（昭35・夏）。同岳を巡る廻行では、流され、滝にぶら下がったりと、単独行の危険もあった。大雪の平標山で、「今日は俺の誕生日だ」で胴上げしてもらった。その下山を誤り、登り直し不時露営となった（昭43・1）。巻機山天狗岩は、海野治良講師の指導。下山で一人の滑落者を停めたは良いが、滝壺にあと五・六十糎手前に肝を冷やし、眼鏡を飛ばし失せてしまう（昭47・5）。ザラメ雪だ、飛べる、一足後飛んで山肌に着地した、叱正が飛んで来た、私は「雪を見ているから」と返事した（昭44・12）。口の回りにこびりついたマンサクの花粉、瘦尾根の密藪、濃霧の中、突っ込み不足の四ツ倉に、焼峰清水釜での強雨の中、立喰いと水のガブ呑みは、しょぼくれた濡れ猫の様でした。この山行で、熊の足跡は一つも見られず、

激減に、何とか共生できないものかと考えさせられた（二王子岳・焼峰山の還暦単独行、昭63・5）。大の男が強風に吹き飛ばされ、戻る。体勢直して腹這いで通過。苗場山頂は静か。山小屋のグシが僅かしか出ていなかった。急ぎ下山、拡声機の制止の声もかき、終りのゴンドラは待っててくれた。関係者に感謝（昭62・5）。一回、転んだものの、独り遅れて京大の小屋へ、夕闇迫る頃入った。翌日、三田原山からの滑降で、一人転倒した。「誰か鉈を」の声に、すかさず出したら「やはり越後は違うな」に、私は「玄さん仕込みです」と返し（平4・3JAC）。緩い氷河に「スキーを持って来れば良かったのよ」「そうだとば」と私。藤井信、坂井の会話、外国はこれのみだから忘れられない（平4・6青海省庆幸山峠）。自転車負荷（全三〇kg）で山の等級付け、経験年数の等級付け、岩・山スキー各技術の等級付け等で登山コースの等級付けが出来ないものかと検討しましたが、私には無理だと知り、止めました。

## 傘寿山行

「八十歳で登っているよ」坂倉登喜子氏に話しかけられて十二・三年、見守られながらも飯豊連峰単独縦走は成った（平20・夏）。ゆっくりと机差岳。山ノ神に感謝しながらの往復は、体力が落ち、病気の兆候が出ていた（平25・6、85歳）。

病体の今、反面教師としての、背を皆さんに見せながら、半人前以下になった体力を、僅かでもと奮い立たせています。



## 「自然保護全国集会」報告

自然保護委員長 吉田 理一

今年の全国集会は、東京都青梅市で開催され、越後支部からは多田政雄委員と私の二名が参加して参りました。

一日目(七月十一日・土)

会場 かんぼの宿青梅  
参加者 九十一名

支部報告 各支部からの活動状況の報告。

全国集会 日本山岳会会長挨拶

青梅市長挨拶

講演 「南アルプスを貫くりニア新幹線の自然破壊について」

テーマ 「日本山岳会自然保護活動のこれからを考える」

① 報告 「日本山岳会自然保護委員会の活動の歴史」

松本恒廣・富澤克禮氏

② パネルディスカッション

パネラー 森 武昭 尾野益大

西村好迪 下野綾子

司 会 近藤雅幸

二日目(七月十二日・日)

フィールドスタディ

① 大岳山登山コース 二十七名

② 高尾の森見学コース 三十九名

③ 横沢入りコース 十一名

越後支部の二名は大岳山コースに参加しました。雪国とは違ってよく手入れされました。雪国では見えない花「レンゲショウマ」「ギンバイソウ」をカメラに収めました。

.....

### 新入会員の紹介

## 谷中 隆明氏

小山 一夫

私は二十年前「峡彩山岳会」に入会し、当時の副会長が谷中さんでした。谷中さんは一九四六年十一月北海道で生まれ、一九六九年北海道大学卒業後、一九七二年新潟県庁に入庁し大気汚染、地盤沈下、大気汚染の調査研究、東アジアの酸性雨モニタリング、原子力の安全行政に最後に県庁を退職されました。

谷中さんは、藤島 玄さんと同じく県庁

から見える越後の山を登ろうと決意したそうです。

厳冬期飯豊縦走や多くの沢や越後敷山に数多く足跡を残し、峡彩山岳会の会長を勤め、又県山協の遭難対策委員長として数多くの功績を残しました。

私の会に入会した動機は冬の飯豊の稜線に立ちたい思いからです。二〇〇七年、会の冬山合宿で、本隊は飯豊の胎内尾根から頼母木山から西俣峰經由下山し、谷中さん

を中心支援隊は西俣峰より頼母木山に支援に向かいました。私は冬の二、〇〇〇m

越える冬山の経験初めてで、冬の幕営等も初めて経験することも多く、思い出深い山

行でしたが、いまでも感激している事が有ります。それは、支援隊の中で初めて冬の

飯豊の稜線に立つ三名が、谷中さんの指示で頼母木山山頂にスクラム組んで上がった

ことが今でも鮮明に覚えています。

谷中さんとは、色んな思い出が多く有りますが、事故で友を亡くした思い出や、

飯豊の数多い山行や、鳥海山の幕営時の夕食等など沢山ありますが、谷中さんの功績

は藤島玄さんの飯豊地図関係資料を調査研究し、玄さんの飯豊に対する思いを現代に

実現させたことだと思います。

谷中さんの飯豊の研究や数多い山行の経験を今後の越後支部の為に活かしていただき

と思います。

## 第三十二回全国支部懇談会 にご協力をお願いします!!

今春四月九～十日、岩室温泉「ゆもとや」及び弥彦山塊で開催されます「第三十二回全国支部懇談会」は、全国から二八〇名(内支部会員七十四名)の参加者が予定されています。

開催支部として、精一杯のおもてなしをしたいと思っておりますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、越後支部参加者は、全員カタクリ色Tシャツ(日本山岳会及び越後支部マーク入り)着用することになります。参加会員には無料提供とします。

### 越後支部会員名簿掲載

(二〇一五年九月発行)の

「支部内規」の訂正とお願い

昨年九月発行の「越後支部会員名簿」掲載の「公益社団法人日本山岳会越後支部内規」第五条二項が欠落していました。

第一項の次に「二、永年会員・終身会員・夫婦会員の区別なく一律とし、又、会友は年額三、〇〇〇円とする。」を追加挿入お願いいたします。訂正するとともに、お詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

# 支部創立七十周年記念登山

実行委員長 山崎 幸和

越後支部創立は昭和二十一年（一九四六）十二月五日ですので、今年（二〇一六）は創立七十周年となります。『越後山岳・第十一号』創立六十周年記念特集で室賀輝男名誉会員の「支部創期の県内会員」に創立発起人が明記されていますが、創立周年記念登山もこれまで六回実施されてきました。

- ・創立記念登山 昭和二十二年六月 苗場山
- ・二十周年記念 同四十一年三月～六月
- ・三十周年記念 同五十一年六月 苗場山
- ・四十周年記念 同六十一年十月 猪ヶ森山
- ・五十周年記念 平成八年九月 越後駒ヶ岳
- ・六十周年記念 同十八年九月 平ヶ岳

延二二七日 新潟県境全踏査縦走  
 七十周年記念の平成二十八年は、昨年十二月の支部晩餐会で発表、本『支部報・第十五号』添付の別紙「日本三百名山越後支部担当二一座踏破」の企画であります。これは日本山岳会が昭和五十二年選定、平成二十六年再出版された『新版日本三百名山』の内、当支部が執筆担当した二一座について、今年三月から十一月までの九ヶ月間に踏破する、という計画です。

その内容は一見簡単そうですが、次々と難題が発生し、五十年前の「県境全踏査縦走」に次ぐ大計画となっていました。これも各二一座担当されるチームリーダーの理解のもとに、一致団結の協力体制が確立されたおかげで実施が可能となりました。今年十二月の七十周年記念祝賀会では、二一座の頂上に桐生恒治副支部長が考案作成の「本部と当支部マーク入りペンタ」を掲げた会員の笑顔の記念写真が拝見できることが楽しみです。

※別紙二一座踏破の計画一覧表は、紙面の都合で要点だけの簡略記載につき、希望山座については詳細照会され申込み願います。

# 新入会員の勧誘にご協力願います。

ご協力願います。

越後支部では、新入会員勧誘の強化に取り組んでおります。本年度は、三名の新しい仲間を得ることができました。新入会員目標は十人以上ですので、更なる会員増加に支部会員の皆様のご協力をお願いします。支部事務局へ問い合わせただければ「パンフレット」及び「入会申込書」を送付します。是非、お声かけ下さい。なお、「入会申込書」は日本山岳会ホームページからもプリントできます。

## 支部会員動向

（二〇一五年六月～十二月）  
 一 物故会員  
 井口 拓夫（No.5093）  
 二〇一五年七月逝去

## 二 退会者

米山 孝志（No.13654）  
 二〇一五年八月  
 齋藤 喜一（No.7328）  
 二〇一五年十月

## 三 新入会員

谷中 隆明（No.15846）  
 二〇一五年十月  
 鈴木 勝利（No.15881）  
 二〇一五年十二月

## 四 支部会員総数

（二〇一五年十二月二十五日現在）  
 二〇五名

# フォト・スケッチ

## 枝折峠で描く

渡辺 欣次

フォト・スケッチクラブの第一回の行事として、枝折峠で滝雲を撮ったり、山を描いたりすることになった。九月三十日五時に黒埼SAに集合とのこと。スケッチは白鳥氏と小生二人だけ。写真は何人なのか、SAでは三、四人が待っていた。本間氏の車に続いて走った。

現地へ着いてみると、山は見えず、寒さはきびしく、車の中で食事をしながら天気を待った。待ったかきがあつて、だんだん雲があがつてきた。写真はいい場所を探して、登ったか、姿が見えない。我々も山のよく見える所を求めて登った。十五分くらいだったか、下ってくる写真の人に会った。写真は早い。もう下るとのこと。我々はこれから。

まず、一番目を惹く荒沢岳にとりかかる。雲はすつかり上がつて、山は全ぼうを現した。ごつごつした岩の稜線を描きながら、丹後山、兎岳から荒沢岳を下つたことを思い出す。水のない尾根でテントを張り、笹の露をなめながら下つたつけ。

描いた場所にはすすきはなかったが、前景として構図を整えた。

次に描いた中ノ岳は丸い山型でどうも面白い絵にはならなかった。稜を見ると、小ぶりながら未丈ヶ岳の尖峰がきりつとしていた。この山にも強い思い出がある。奥只見丸山ヘスキーに行った時、あまりの好天でゲレンデでは物足らず。仲間と別れて一人稜線伝いに未丈ヶ岳へ行ったこと。残念ながら長大なスロープには恵まれず。未丈ヶ岳初登頂だけに終った。その後、秋に

深田クラブの一行と再訪したが、深田さんが何度か挑んだ山として、当クラブには特別な山となっている。

前景に、紅葉したかん木、何という木か知らないが、絵に色どりを添えてくれた。下りは銀山湖から、トンネルを抜けて小出へ出て、破間川の川原で食事。そこからの魚沼三山を三枚。満足したスケッチ行となった。

近頃は写真ばかりで、絵は歓迎されない傾向だが、じっくり山を眺めて、心に刻み込む人がスケッチクラブに入ってくることを切に願っている。

# 編集後記

## 山岳写真を募集

四月に岩室温泉で全国支部懇談会が開催されます、その会場に展示する山の写真を募集しています、是非参加下さいませようお願いします。

募集期間 二十八年三月七日(月)～切

サイズ 半切～全倍

県内の写真を基本としますが、県境も可(外国不可)。

今回は全国から会議に参加されます、是非力作をお願いします。

四月九日～十日の二日間になります、この後県内二ヶ所位で開催しますので、是非参加下さいませようお願いします。

## 問い合わせ

本間 一人

〒九五〇一〇二一〇

新潟市江南区横越上町二一〇一六

携帯 〇九〇一三六四一一七九二

FAX 〇二五一三八五一二二二五